

この人に 会いました



高波菊男さん

1948年生まれ 64歳 日本大学卒
昭和46年土樽山の家に入る
有限会社タルト 営業本部長
夏期 蓬ヒュッテ管理人、山岳ガイド
冬期 ナスパスキースクール教師
新潟県自然保護員
自然公園指導員
湯沢トレッキング協会会長
湯沢山想会長

山岳観光を目指して

湯沢町の90%は山である。最高峰苗場山をはじめ白砂山、平標山、谷川岳、七ツ小屋山へと連なる山脈は分水嶺となつて日本海へと注ぐ。その山々のおかげで豊富な降水に恵まれ、スキー場が開発されてきた。

私の生まれた土樽スキー場は、国鉄の駅がなければ全くの山の中で、村まで30分もかかる所だ。そこから朝に夕に眺めた山が茂倉岳だ。谷川岳はその裏になつて見えない。

父（吾策）は人気の谷川岳へ越後側からの道を作ろうと、土樽に住みついて昭和17年蓬峠、27年茂倉岳、28年万太郎山、30年平標山へとそれぞれ新道を開拓した人だ。

私が本格的に山を登り始めたのは20歳の頃で、東京の山の会に入り、山登りや冬山を教わった。その頃から家に帰ってくると鎌を持って山に入り、登山道の刈払いを手伝った。父の死後、

兄（故人）が困っていたので家の手伝いをすることにした。仕事は接客業の他、山菜採り、魚釣り、登山道の整備、冬はスキー教師である。これが面白くてやめられなくなつてしまった。

蓬ヒュッテの管理人を3年程やり、苗場山遊仙閣の生活は32年になる。周囲10キロで4平方キロもある高層湿原が広がっている。是非登つてもらいたい山だ。

登山道の整備は事故防止と高山植物の保全にある。道が刈り払われていると足元がよく見え、転倒などを防ぐ事ができる。また当然道迷いもない。刈払いがなされていないと夏山では朝露に濡れても日中乾くが、秋山では低体温症を招く事になる。

ブームを呼んだ深田百名山を登頂した人は二百、三百名山を目指す。花を求めた人は紅葉を求める。限りなくロマンが広がり、そこに



登山の魅力がある。

今、登山界は低迷しているようだが、ツアー登山は盛んだ。高尾山など低山はブームである。私がガイドしている角田山は今の時季行列になる。坂戸山、六万騎山でもそうだ。登りやすく、求めるものがあり、不安のない環境をつくれれば人は山に入る。

旧三国スキー場から登り、稲包山を経て三国山へ至る道は山岳トレイルとして紹介するのも良いだろう。夢は谷川岳を越え、巻機山、越後三山へと続く。今後の山岳観光の伸びしろに期待したい。

編集後記

私たち議員の任期もちょうど半期、現メンバーでの発刊が8回目となりました。この2年間、「とにかく見てもらえるように、読んでもらえるように」を心掛け、編集に取り組んできましたが、いかがでしょうか。

議会広報の役目は行政が何を提案し、それについて議会がどう審査し、どう決断したかを、皆さんにお知らせすることが最大の使命と思っております。もちろん議員提案についても同じです。

音声配信、動画配信（調査中）と合わせて、皆さんに議会内容を知っていただき、それが「協働のまちづくり」につながっていけばと思います。

今後も委員一同頑張っていきますので、ご意見、ご感想を是非お聞かせください。

広報委員会

委員長 角谷 勉
副委員長 白井孝雄

岸野雅人・高橋綾夫
関 忠夫・宮田眞理子

編集 湯沢町議会広報常任委員会